

今冬のインフルエンザ

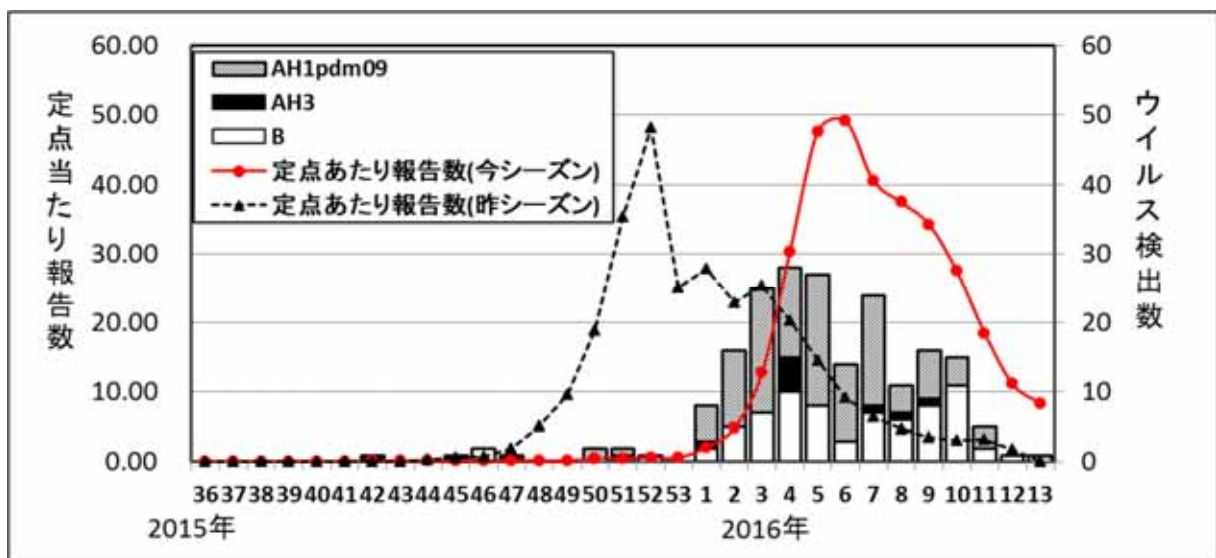
(1) 定点あたり報告数の推移

今シーズンのインフルエンザは、昨シーズンより 1 か月半ほど遅く本格的な流行を迎えました。定点あたり報告数は 2016 年第 3 週から急上昇し、第 6 週に 49.13 に達してピークとなりました（下図参照）。第 7 週以降は報告数が減少し、第 13 週には 8.28 となり、今シーズンの流行は終息に向かいつつある状況です。

(2) ウイルス検出状況

2015 年第 36 週から 2016 年第 13 週までに、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで検出されたウイルスは、AH1pdm09 が 116 件、A 香港型（AH3）が 12 件、B 型が 73 件です。今シーズンは、昨シーズンとは大きく異なり、検出ウイルスは AH1pdm09 が最も多く、次いで B 型、AH3 という状況です（下図）。昨シーズンの流行の主体であった AH3 の検出数は少なく、これは全国的にも同様の傾向です。

図 インフルエンザウイルス検出状況及び定点あたり報告数（埼玉県 2015 年第 36 週～2016 年第 13 週）



(3) 抗インフルエンザ薬耐性ウイルスについて

国立感染症研究所において、2016 年 4 月 1 日までに全国で分離されたウイルスのうち、AH1pdm09 の 1560 株、AH3 の 66 株、及び B 型の 123 株について、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル及びラニナミビル（AH1pdm09 のザナミビル及びラニナミビルは 152 株）に対する耐性の有無を調べたところ、AH1pdm09 の 27 株（1.7%）にオセルタミビル及びペラミビルに耐性を示すウイルスが検出されました。このうち 16 株（1%）は、抗インフルエンザ薬投与例からの検出でした。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>）でご覧になれます。